

CA1  
EA947  
371  
+3/1991  
DOCS

Canada  
News

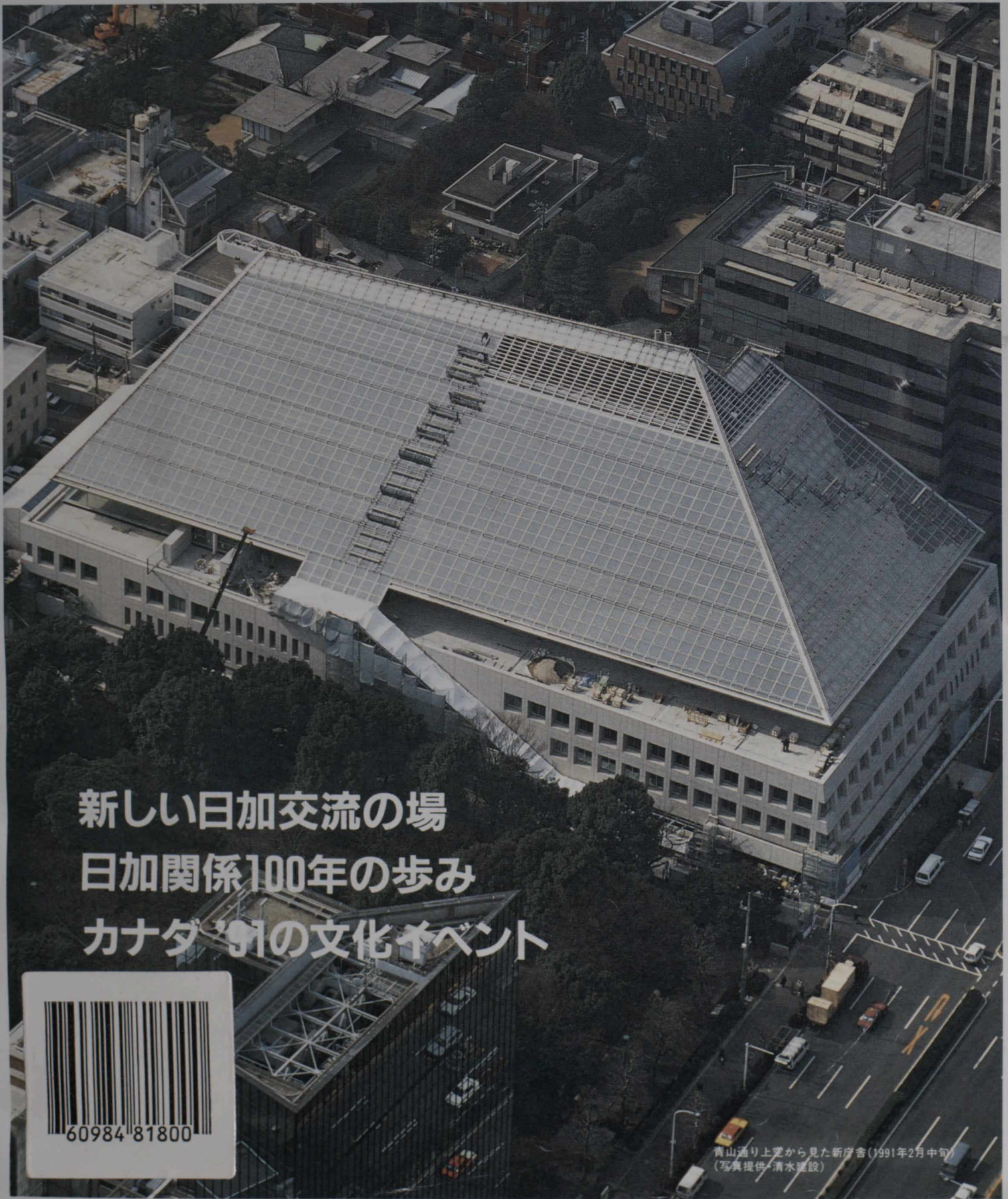
# カナダ大使館

## —新庁舎完成記念号—

19 1991年3月  
ISSN 0912-0440

発行 カナダ大使館 広報・文化部 〒107 東京都港区赤坂7-3-38 TEL 03-3408-2101

LIBRARY E A / BIBLIOTHÈQUE A E  
3 5036 01030044 3

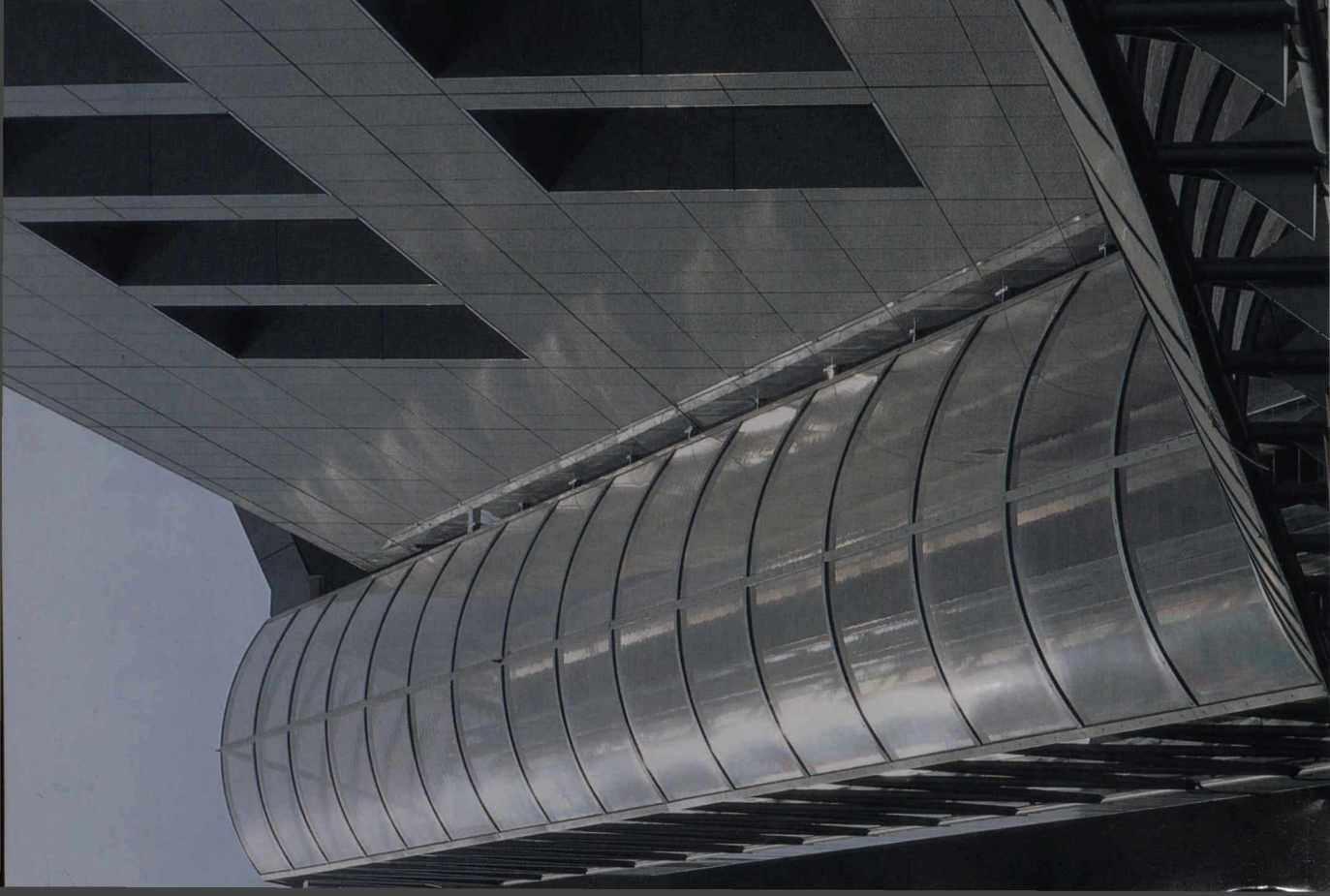


新しい日加交流の場  
日加関係100年の歩み  
カナダ'91の文化イベント

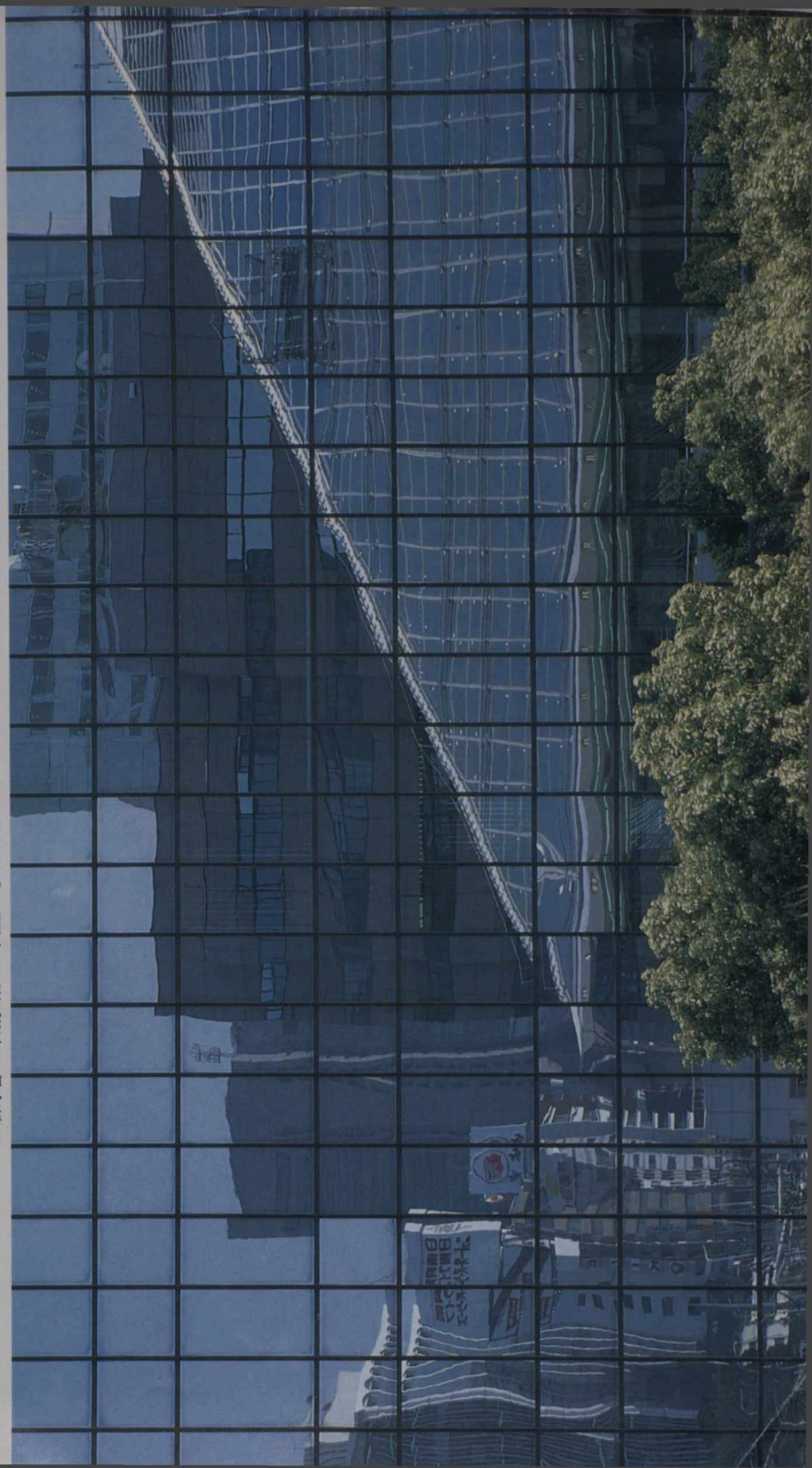


青山通り上空から見た新庁舎(1991年2月中旬)  
(写真提供:清水建設)

# 新しい、日加



▲新庁舎の外観。4階への天蓋つきエスカレーター ▼草月会館の外壁ガラスに映った屋根部分 ▲西側の壁





TO/À • The Under-Secretary of State  
for External Affairs, Ottawa (BPF)

FROM/DE • The Canadian Embassy, Tokyo

REFERENCE •  
RÉFÉRENCE

SUBJECT • Canada News No.19  
SUJET

*In/ Jeanne Valentin R.*

Security/Sécurité	Unclassified
Accession/Référence	
File/Dossier	56-13-1
Date	October 1, 1991
Number/Numéro	UIFC0721

ENCLOSURES  
ANNEXES

DISTRIBUTION

- BY POST  
EXTOTT/PGP  
PNR PNJ  
BMP MINT  
PND BKA  
BCB BKR  
PGB BTC  
BKD BTD  
BMS BKC  
BCL BCM  
BFD BTA

Investment  
Canada

TOKYO Offices  
of:  
Alberta Govt.  
B.C. Govt.  
Ontario Govt.  
Quebec Govt.

Osaka Congen

Attached is a copy of Canada News No.19, distributed in April, which features the new Chancery along with articles on Canada-Japan relations in the past 100 years and cultural events scheduled for 1991 including the Great Canada '91 project. To introduce the new Chancery, this special issue carries many colour photographs taken by a professional photographer. 12,000 copies were printed for use as introduction material for the media and other Embassy contacts at press conferences, seminars and meetings in addition to the usual distribution.

Page 1: Cover: An aerial view of the new Chancery

- Page 2-3: Introduction to the Chancery
- Ambassador's message
  - Place Canada has three faces: the Embassy offices; the Embassy's public spaces on the 4th floor and on the B2 level; and the surplus portion.
  - brief description of the redevelopment project

- Page 4-7: Description of the facilities in the Chancery
- Embassy offices on the 4th to 7th floors
  - Canada Garden
  - exhibition space with capacity for fairs, exhibits, receptions of various kinds
  - theatre, gallery, library and lobby on the B2 level
  - brief guide on how to use the public areas and the Embassy's working hours
  - interview with Raymond Moriyama: concept of the design

RECEIVED  
IN THE LIBRARY ON

OCT 11 1991

REÇU  
A LA BIBLIOTHEQUE LE  
EXT 407

Page 8-9: Brief history of Canada-Japan relations

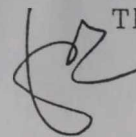
- early days of relations between the two countries
- establishment of the Canadian legation
- progress in relations after World War II
- active exchanges in various areas between Canada and Japan
- message from Dr. Hugh Keenleyside

Page 10-12: Many cultural programmes throughout 91: Year of Canada in Japan

- Masters of the Arctic exhibition to open the new Chancery theatre
- Great Canada 91: ballet performances, classical music concerts, musical performances, film screenings, art exhibitions for 2 weeks in July at Bunkamura, the Chancery and other places; details about these programmes
- other cultural programmes scheduled in 91
- programme list

*A Blavatsky*

The Embassy



Dept. of External Affairs  
Min. des Affaires extérieures  
OTTAWA

OCT 1 1991  
RETURN TO DEPARTMENTAL LIBRARY  
RETOURNER A LA BIBLIOTHEQUE DU MINISTRE



エスカレーターで4階上ると、トロントの彫刻家テッド・ビーラー氏の作品「砕ける波」が、出迎えてくれる。

# 交流の場

## 大使館事務所・公的施設 回廊庭園を併設

東京・青山通りに面して建てられた新しいカナダ大使館庁舎をちょっと離れたところから眺めると、3階建てのがっしりした石造ビルの上に、ガラス張りの大きな三角屋根がかぶさっているように見える。また、青山通りの正面に立ち、あるいは門内に入っていくと、一瞬3階建ての印象を受ける。

実際には、地上8階、地下3階、高さ36メートルある中層ビルだ。ただ、4階部分がカナダ・ガーデンと呼ばれる広い屋外テラスに囲まれ、そこから上が屋根状に傾斜しているため、3階建てのように見えるのだ。しかも、正面の壁が直立でなく若干傾斜しており、それがさらに建物の威圧感を薄めている。

これがおよそ2年前に着工され、今年3月末に完成したカナダ大使館新庁舎だ。建築面積4,847平米、延べ床面積32,400平米の鉄骨鉄筋コンクリート造り。壁や床は、みかげ石で仕上げられている。

### 3つの顔

新庁舎には、3つの顔がある。

第1の顔は、大使以下の館員が対日外交を進め、貿易・投資・科学技術交流・文化交流などを促進し、あるいは査証業務を行なうための事務所である。館員は、ここを基地にして、多くの人と会い、各地を飛び回り、本国と連絡をとる。大使館のいわばオペレーション・センターである。特殊ガラスの屋根をかぶせて自然光をふんだんに取り入れた5階から8階まで、こうした機能を果たすための大使室、それぞれにコンピューターを備えた超近代的な事務室、会議室などが陣取っている(ただし査証部は2階、領事部は3階)。

第2の顔は、日本との交流の場だ。さまざまな文化行事やトレード・ショー、会議などを通じてカナダ人と日本人がここで接触し、理解し合い、あるいは商談する。大使館の受付、総ガラス張りの展示場、ホテル並みの設備を整えた調理場、そして展示場を囲むカナダ・ガーデンなどからなる4階と、広いロビーをとり囲むようにして劇場兼講演会場、ギャラリー、そしてリサー

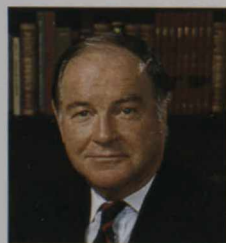
チ・ライブラリーがおかれた地下2階が、出会いの場である。4階と地下2階は5階以上の事務所セクションと切り離された、いわば公共的なスペース。4階では物産展、投資セミナー、料理実演セミナーなど、地下2階では美術展、コンサート、映画会、講演会、記者会見など、年中いろいろな催しものが開かれ、カナダ関連の図書、新聞・雑誌、ビデオなどを備えたリサーチ・ライブラリーも一般に開放されている。

圧巻は4階の回廊式カナダ・ガーデン。室内にある展示場やギャラリーと違って、ここは完全に屋外のテラスで、外から自由に出入りして(ただし大使館の開館時間中で、展示などで使用されていない場合)散策できる。粗仕上げのみかげ石を張った床に、カナダの大西洋岸からカナダ楕状地、大平原、北極海、マッケンジー山脈、ロッキー山脈、太平洋、そして太平洋の島々を渡って日本に至る風景が、地形や彫刻、滝、庭園などによって展開されている。そこから眺める東京の景色もすばらしい。東京の新しい出会いの名所になるはずである。

これらはいずれもカナダ大使館の顔であるが、新庁舎ビルの一部(地上1~3階)はビジネス用に賃貸されることになっており、それが大

使館庁舎ビルとしては例のない第3の顔を作っている。そこにもまた、日加交流の精神が生きている。大使館と同じく青山通りに面するこの部分には、清水建設、長谷川工務店、アルバータとブリティッシュ・コロンビアの州政府代表事務所、大手銀行などが入る。

これは、大使館敷地の再開発に不動産信託という新しい方式が取り入れられたからだ。コンペで選ばれた清水建設と三菱信託銀行が資金を調達して、大使館所有の敷地に新庁舎を建設し、その建物の一部を賃貸して事業費を回収する、というやり方である。当初は大使館庁舎と賃貸ビルを別々に建てるという構想もあったが、結局ひとつの建物に両方を収容することになった。総工費は、仮庁舎の建設費、その後建てるカナダ人職員宿舎の建設費を含めて、約225億円。カナダ側は、敷地を供与したほか(ただし所有権はカナダ政府に所属)、大使館業務に必要な備品、保安設備、通信施設などの費用を負担した。現在は大使館部分と賃貸部分はほぼ半々だが、大使館業務の拡充とともに、信託部分は徐々にカナダ政府に移管され、信託期間が満了する30年後にはすべて返還されることになっている。



### 新庁舎へようこそ

駐日カナダ大使  
ジェームズ・テイラー

在日カナダ大使館  
新庁舎の開館は、ま

さに日加二国間関係の重要性を象徴するものです。1929年に両国が外交関係を樹立して以来、その関係は政治、経済、科学技術、学術、文化、姉妹都市提携とさまざまな活動や交流へと大きく発展してきました。

新庁舎("Place Canada")は、大使館としては異例なことに、素晴らしいギャラリー、劇場、図書館、そして広々とした展示場を併設しています。これらの施

設がカナダの最高水準の文化および産業の実績を紹介するセンターとなるよう、期待しています。

「カナダ・ニュース」のすべての読者が新庁舎を訪問され、そのさまざまな施設をご利用下さることを歓迎します。"Place Canada"は5月27日に公式にオープンし、ただちにイヌイット芸術展「マスターズ・オブ・ジ・アークティック/極北の名匠たち」が公開される予定です。新庁舎で展示されるこれらの素晴らしい作品を、ぜひともご覧下さい。



オフィス(7階)。



4階のエキシジション・スペースは、四方がガラス張り。

### オフィスと公共施設

このように、新庁舎は3つの部分(大使館のオフィスと公共スペース、それに賃貸部分)から成っているが、大使館と賃貸部分は出入口が異なっているだけでなく、建物内でも完全に分離されている。ここでは大使館の2つの部分に限って説明しよう。

大使館に入るには、2つの方法がある。まず青山通りに面した通路を通して、右手の、透明なキャノピー(天蓋)をついた屋外エスカレーターに乗って4階のカナダ・ガーデンおよびメイン・ロビー(受付)に直行する方法。もうひとつは、門からそのまま進んで、奥に位置した大使館正面玄関を通り、エレベーターで4階のロビーまたはエスカレーターで地下2階に行く方法である。

屋外の直通エスカレーターに乗って、4階で降りると、そこがカナダ・ガーデンだ。エスカレーターを降りて、大西洋からカナダ植民地、大平原、北極へと歩を進めると、眼下に高橋是清記念公園が、そして彼方に赤坂、永田町などが広がる。人間の形に石を積み重ねたイヌイトの彫刻イヌクシュックに見守られながらマッケンジー山脈そしてロッキー山脈へ進むにつれて、紀尾



外光をいっぱい採り入れた7階の廊下。

井町の高層ホテル、樹木の生い茂る元赤坂(赤坂御所)や新宿御苑、さらに遠くに新宿新都心のビル群が一望できる。「旅」は太平洋を渡って、カナダ植民地の反対側にある日本庭園で終わる。

大使館に用事のある人は、4階の入口からメイン・ロビーに進む方法もあるが、1階の大使館入口には各階の説明や館内のイベントを紹介するディスプレイ・パネルが備えてあるので、そちらが便利だ。劇場やギャラリー、リサーチ・ライブラリーに用のある人は、1階からそのままエスカレーターで地下2階へお入り。4階の展示・宴会場、あるいは5階以上の事務所に用のある人は、直行エレベーターで4階へ進むことになる。

5階以上には、大使室のほか、政治部、経済・金融部、商務部、投資振興室、科学技術室、広報・文化部などがあり、4階の受付

けて来意を告げると、担当者や秘書が迎えにきてくれることになっている。査証部は2階、関税部は5階、領事部は3階、そしてトラベル・インフォメーションは、4階と5階にある。

4階は、カナダ・ガーデンに囲まれた総ガラス張りの大展示・宴会場になっている。ホテル並みの立派な調理場が用意されて、カナダの食品展とともにカナダの材料を用いた料理の実演・試食ができるほか(会場では、大きなモニターテレビでシェフの料理する模様が見られ、300人=立食形式だと800人=の宴会が開催できる)、各種の物産展、美術展、投資セミナーなどの会場にも適している。3平米のブースが約30設置できるし、会場をさまざまに区切ったりすることもできる。テラスを利用すれば、さらに大きな展示会やレセプションが開ける。

同じ4階には、「大西洋」に面して、特別ゲスト用のダイニングルームもおかれている。



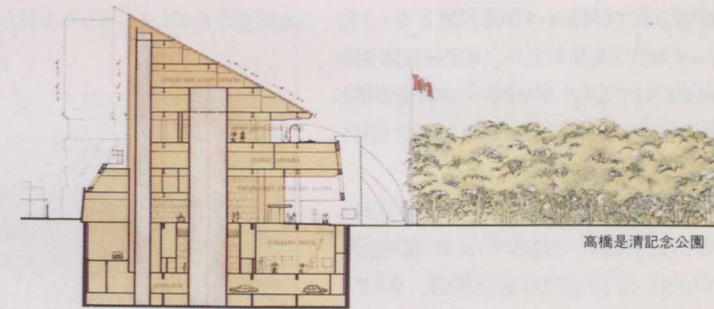
カナダ・ガーデンの日本庭園(4階)。



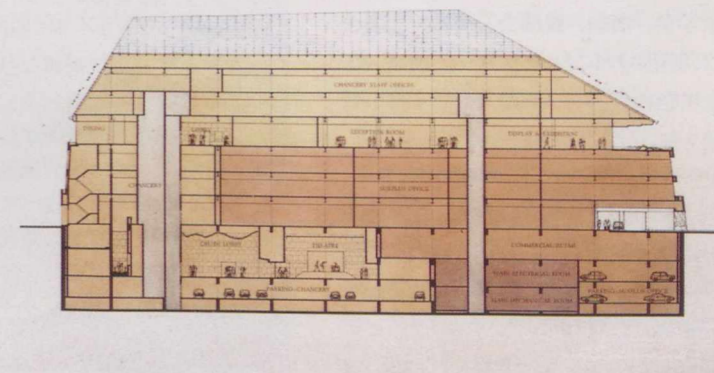
カナダ・ガーデンに立つイヌイトの彫刻「イヌクシュック」。



4階正面玄関の扉と明かり取り窓は、1930年代に建てた前庁舎のものを使ってある。



高橋是清記念公園



新庁舎の断面図。4階から8階までと地下2階が大使館。1~3階は賃貸部分。駐車場は地下3階にある。



地下2階のロビー。正面にエレベーター、奥にエスカレーター、右がライブラリー、左がギャラリー、手前側に劇場がある。

## 文化・学習施設

1階からエスカレーターで地下2階におおると、広いロビーにでる。そしてロビーを囲むようにして、劇場、ギャラリー、リサーチ・ライブラリーが配置されている。いずれも、地下1・2階分をとっており、天井が高い。ロビーは休憩や待合わせだけでなく、ギャラリーや劇場の催しに付随するレセプションにも利用できるように設計されている。

劇場は、グラウンド・ピアノやブアルダウン式スクリーンのある舞台、233のクッション張り座席、映写ブース、3言語同時通訳施設、ライティングなどが完備しており、コンサート、リサイタル、試写会、演劇、講演会、会議、記者会見などに利用されることになっている。波状の木目に暗黒色の斑点の入ったメーブル材の壁が、落ち着いた雰囲気を醸し出している。

ギャラリーは、主としてカナダのビジュアル・アーツの展示場として利用されるが、製品展示や小規模のトレードショーが開かれることもある。リサーチ・ライブラリーは、カナダの書籍や新聞・雑誌、政府刊行物などに加えて、ビデオ、16mmフィルム、コンパクト・ディスク、ス

ライド、マイクロフィルム、オンライン・データベース（カナダの最有力全国紙グローブ・アンド・メールの“InfoGlobe”および3万以上のカナダ企業に関する情報を網羅した“WIN EXPORTS”）などがおかれ、ビデオ視聴覚室も用意されている。もちろん貸し出しも行なうが、

40人分の座席が準備されており、その場で資料を閲覧することもできる。書籍は、当初は1万4千冊を揃え、今後2万冊に増やす予定。日本で最大のカナダ関係リサーチ・ライブラリーである。

## 施設利用について

カナダ大使館の4階と地下2階の公共施設はカナダ政府が主催または後援する催しものだけでなく、州政府や、日本においてカナダの各分野を促進するためにカナダまたは日本の企業、団体あるいは個人が行なうトレードショーやレセプション、セミナー、美術展などにも利用できることになっている。

連邦政府以外の機関が施設の使用を希望する場合、大使館の担当者が後援者となる詳しい企画書を提出する、電気代などの予想実費を事前に預託するなど、さまざまな手続きが必要。詳細は、カナダ大使館の施設マネージャーに問い合わせること。

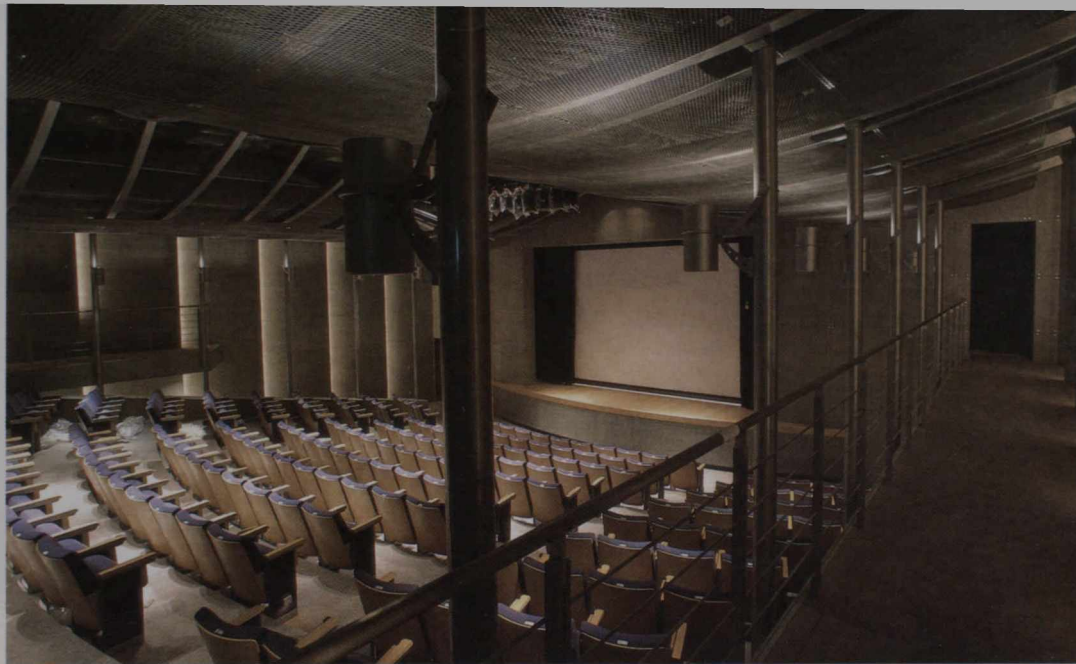
## 大使館案内

開館日 ■月曜から金曜まで（ただし特定の祝祭日を除く）  
開館時間 ■午前9時～午後5時半  
住所 ■〒107 東京都港区赤坂7-3-38  
電話番号 ■代表 03-3408-2101  
（直通）トラベル・インフォメーション 03-3479-5851  
（直通）査証部 03-3403-9176

カナダ総領事館 ■〒542 大阪市中央区西心斎橋2-2-3 第三松豊ビル12階  
電話 06-212-4910



リサーチ・ライブラリー(地下2階)の螺旋階段。



地下2階の劇場。



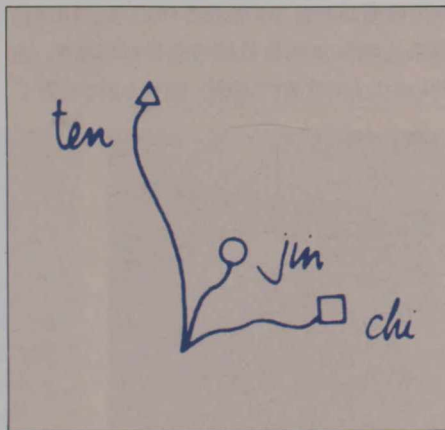
モリヤマ氏

日加文化の接点を探る設計概念

## 「遠慮」と「天・地・人」のメタファー

カナダ大使館新庁舎は、モリヤマ・アンド・テシマ設計事務所(トロント)の著名な日系建築家レイモンド・モリヤマ氏(写真)が設計構想を、清水建設が具体的な設計を担当した。鹿児島県出身の父、東京出身の母をもつモリヤマ氏は、オンタリオ・サイエンス・センター、スカバラ市民会館、メトロポリタン・トロント図書館など、利用者のための公共空間をうまく生かした公的建物の設計者として知られ、カナダ政府から勲章も受けているが、日本での仕事は今回が初めて。

モリヤマ氏の新庁舎設計構想には、さまざまな思いが込められている。ひとつは「遠慮」。例えば、新庁舎は大使館と賃貸部分が2つの高層ビルに「垂直分割」される代わりに、ひとつの建物の中で「水平分割」されたことにより、どちらも青山通りに面している。そして、近隣の日照を邪魔しないように建物をセットバックさせるとともに、赤坂御所から引込むように内側にやや傾斜している。これで、通行人も威圧感を与えないし、ビル風も避けられる。ガラス張りの大きな屋根のように見える5階以上の、青山通り側と高



橋は清記念公園側を大きく斜めに切ったのも、こうした「遠慮」の表われだ。

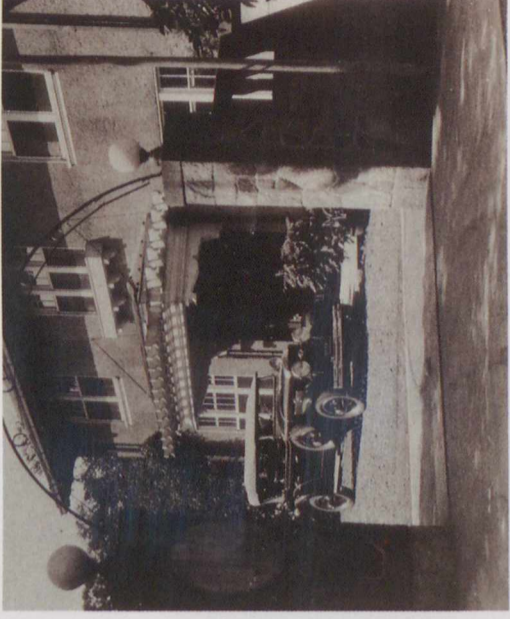
そして空間。4階のカナダ・ガーデンの着想。そこから見える高橋公園や赤坂御所の木々をはじめとする広い空間が広がる。いわばカナダの広さを象徴しているようだ。

もうひとつは、日本の生け花の「天・地・人」と、カナダの「産業精神・天然資源・国民」を、両国のメタファーとして、それぞれ三角(△)、四角(□)、円(○)で表現したこと

だ。例えば、四角い窓、4階にあるさまざまな円形のデザイン、「天」の字を描く屋根の片持梁。さらに、天(産業精神)はガラスとメタル、地(天然資源)は石材、そして人々の集まる場所は空間と光で表現されている。2つのメタファーを結ぶのは、人々という共通要素。両国の人々が4階の展示場やカナダ・ガーデン、あるいは地下2階の文化施設で出会い、話を交わし、信頼関係を築く。それが新庁舎の基本的な設計思想である。

また、黄昏の自然光の変化に合わせて4階展示場の照明がコンピューターで徐々に変わる(視覚)ようになっているほか、風で動く彫刻や滝(聴覚)、カナダ産の花崗岩(触角)、年中咲き誇る花壇(嗅覚)を配するといったように、人間の五感に訴える工夫もされている。文化施設が地下におかれているのも、人間と文化は地球、あるいは「地球の懐」と深く関わっていると考えられるからだ。またある神話では弓は親、矢は子供を象徴しているが、ドアの把手は弓の形をして天を向き、人々に天を目指すようにと告げている。





前漁業大臣を初代駐日大使に任命する。同年、日・米・加の間で北太平洋漁業条約が東京で調印された。

こうして戦後の日加関係が発展へ向けて歩み出した。すでに1953年には、日本はカナダから1億2千万ドル相当の商品を輸入してカナダ第4の貿易市場となっている。日本の対加輸出額は1,400万ドルだった。

その後、皇太子殿下のカナダ親善訪問(1953)、サンローラン首相の訪日(1954)、日加通商協定の調印(同年)、吉田首相の訪加(同年)、日加航空協定の調印(1955)、河野一郎農相や藤山愛一郎外相の訪加(各1955と58)、日加原子力平和利用協定の調印(1959)、佐藤栄作蔵相の訪加(同年)、岸首相と藤山外相の訪加(1960)、池田首相と小坂外相の訪加(1961)、デューエンペーカー首相の来日(同年)などに見られるように、日加関係は急速に活発化する。日本の復興とともに貿易は日の出の勢いで伸び、対加投資も増えていった。

日加関係は70年代、80年代に入っても発展を続けた。日加貿易は双方で180億ドル(1989年)を超え、対日輸出の内容も製品・加工品の比率が高まってきた。工業製品には、航空機器や通信機器なども含まれている。日本の対加累積直接投資は大手自動車メーカーなどの進出もあって、40億ドルに達した。科学技術は400億ドルに上るものと見られる。科学技術、新素材、宇宙開発などの協力も進んでいる。

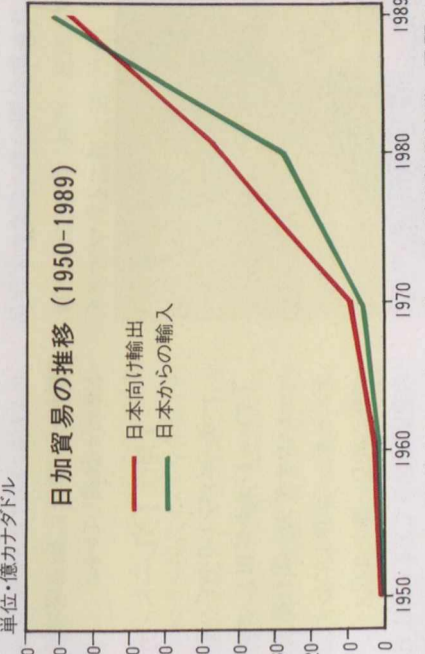
日加定期外相会議、日加経済合同委員

# 日加関係100年の歩み

は、徳川初代公使を迎える歓迎晩餐会で、「米國はカナダに最も近い隣国であり、北米大陸における唯一の隣国である。フランスはヨーロッパ大陸でわれわれの最も古い、かつ近い隣国である。日本はアジア大陸における最も近い隣国である」という認識を示している。日本はすでに太平洋地域における一大勢力へと発展し、今後国際的に発言力を強めていくことは明らかだった。またカナダの対日輸出は30年前の30倍に急増し、産業化や食習慣の変化によって、一層の拡大が期待されていた。移民問題への対応も必要だった。カナダ国内には、大英帝国の足並みを乱すとして、独自の外交関係樹立に反対する声もあったが、キング首相は譲らなかつた。初代公使に、かつてモントリオール選出の下院議員で、無任所大臣を務めたこともある“大物”を派遣したことも、キング首相がいかに対日関係を重視していたかを示している。

## 戦後の発展

日加関係は戦争で中断した。しかし第二次世界大戦が終わると、カナダは日本の民主化復興に尽力する。日本生まれで日本史専門家の外交官E・H・ノーマンがマッカーサー司令部でさまざまな役割を果たしたことはよく知られている。1946年に東京にカナダ代表部の設置が認められると、ノーマンはその首席に任命された。代表部の主な仕事は、日加貿易関係の再



開、在日カナダ人(ほとんどが聖職者とその家族)への対応、日本に帰った日系カナダ人の帰国問題の処理だった。

1952年のサンフランシスコ平和条約成立とともに、カナダと日本は正式に国交を回復し、ノーマンの後任としてカナダ代表部を率いていたアーサー・メンジーズが大使代理となった。まもなく、日本政府は井口貞夫外務次官を初代駐加大使に任命、カナダ政府はR・E・メイトュー

活躍した。日本からは、1877年の永野萬蔵に続いて、カナダ(とりわけブリティッシュ・コロンビア州)への移住者が相次いだ。そして東洋人を歓迎しないブリティッシュ・コロンビア州で、深刻な東洋人排斥運動が起こった。

こうした動きの中で、カナダは1897年に商務代理を日本に派遣し、1903年には大阪勸業博覧会に小変や肉、材木などを出展した。1889年には両国間で郵便為替協定が結ばれ、通商問題や移民問題に対応するためバンクーバーに日本領事館が設置された。日本は1902年にモントリオールに総領事館を設立し、2年後にそれをオタワに移している。1904年には横浜にカナダの商務官がおかれた(関東大震災のあと、神戸に移された)。

## 対日関係の重要性

マッケンジー・キング首相下のカナダ政府が日本との外交関係樹立についてイギリス政府と協議を開始した1927年、また関係樹立を発表した翌年には、少なくともカナダ側にとっては対日関係を強化するだけの理由があった。キング首相

マーラー公使が到着して3週間後、日本の初代駐加公使・徳川家正公爵がカナダへ向けて出発した。徳川公使は10月21日、オタワでウィルソン総督に信任状を奉呈、その日開かれた晩餐会でマッケンジー・キング首相から歓迎の挨拶を受けた。

これによって、カナダと日本は正式に国交を樹立したわけである。

## 日加関係の夜明け

カナダは、他の英国自治領と同じく、1926年の英帝国会議で対外的独自性が承認されたばかりであった。それまで、カナダの外交はほとんど英国が行っていた。

そのカナダが、歴史的に深い英国を除けば、米国(1927年)とフランス(1928年)に続いて3番目に日本と外交関係を樹立したのはなぜだろうか。

実は、1867年に連邦国家として成立したカナダは、その翌年明治維新を迎えた日本と、早くから少なからぬ交流をもっていた。明治維新直後から貿易が始まり、1876年には日本から緑茶を中心に62万ドル相当の品物がカナダに輸出され、カナダからは丸太や石炭など1万3千ドル分の商品が日本に輸出されている。1873年以来、カナダから宣教師の来日が増え、布教のかたわら教育、医療、福祉などの分野で

## 100年の歩み

1929年7月1日、東京の空にアジアで初めてカナダの国旗が翻った。場所は渋谷駅から400メートルほどの永井屋敷にあった、木造2階建ての仮公使館。式典には、すでに40年以上も前から日本に住んでいたマッケンジー博士やノーマン博士などの宣教師、社会事業家、教師、その家族など、日本在住のほとんどのカナダ人が出席した。ハーバート・マーラー初代公使の着任準備のためすでに5月に来日していたキンリーサイド一等書記官(代理公使)の指揮で、国旗(当時は英国商船旗)が掲揚され、のちに国歌となる「オー・カナダ」のレコードが演奏された。

日加関係の記念すべき幕開けであった。その年の9月9日に、エンプレス・オブ・フランス号で、マーラー公使が到着し、同日、天皇陛下に信任状を奉呈する。その後まもなく、公使館は皇居近くの帝国生命ビルの一室に移された。マーラー公使の尽力で、旧笹山藩13代目藩主・青山忠俊子爵の所有地であった現在の場所に、公使館と公使館が完成したのは1933年11月のことである。公使館は現在も大使公邸(マーラー・ハウス)として利用されているが、公使館(後の大使館)は今度の新庁舎工事に先立って取り壊された。

## ごあいさつ

ヒュース・L・キンリーサイド

1929年5月、在日カナダ代表部の先陣として日本に着任したとき、スタッフのための事務所を確保するのが私の任務のひとつでした。あのときのささやかな事務所からは、その後ハーバート・マーラー卿が完成させたバラデューイオ株式の珠玉のような公使館と公使邸、そして今年完成した新庁舎を予測することは、不可能だったでしょう。

同様に、カナダ代表部の活動も公使館的なものから近代的な大使館活動に拡大しました。日加関係促進のために努力を続けておられる皆さま、そして大使館のカナダ人および日本人スタッフの方々に、ご成功を心から祈っております。

(キンリーサイド氏は、マーラー初代公使が1929年9月に着任するまで、仮公使館を確保するなど正式の国交樹立に備えた。1936年1月に日本勤務を終えたあとも鉱物・資源省次官などさまざまな公職を歴任した。ビクトリア在住、92歳)

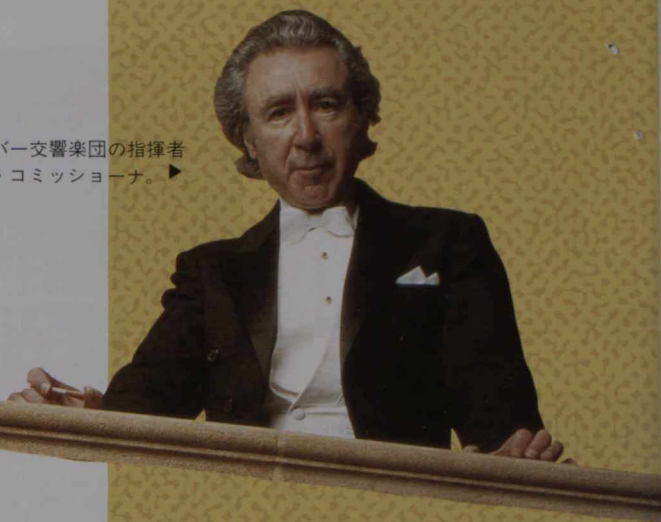


信任状奉呈の日のマーラー公使(右から2番目)、公使の左がキンリーサイド氏。

グラン・バレエ・カナディアン。



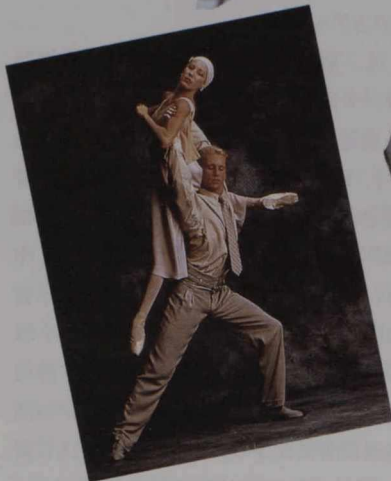
バンクーバー交響楽団の指揮者セルジュ・コミッシューナ。



ミュージカル

# イヌイット彫刻展、「赤毛のアン」など 今年いっぱい 各種のイベント

新庁舎完成記念



## 文化イベントがいっぱい

今年、「ザ・イヤーズ・オブ・カナダ・イン・ジャパン」。カナダ大使館が、新庁舎の完成を記念して、日本でカナダの芸術や文化を紹介する数々のイベントを繰り広げる年だ。

カナダの芸術を形容するとき、「革新的」とか「前衛的」、あるいは「独創的」といった言葉がよく使われる。いずれもカナダ文化の躍動的状況をよく反映している。文学でも、ダンス、映画、音楽、あるいはその他どんな芸術領域でも、カナダの芸術家たちは、国内はもちろん、世界各地で注目を浴びている。イヤーズ・オブ・カナダは、日本初公開の数々のカナダ作品

オーフラ・ハーノイ。

や、すでにおなじみの懐かしいカナダの芸術家や作品をお届けする。

## イヌイット芸術展で本格オープン

イヤーズ・オブ・カナダの本格的幕開きは、5月28日から新庁舎ギャラリーで始まるイヌイット芸術作品の展覧会「マスターズ・オブ・ジ・アークティック／極北の名匠たち——地球に奉仕する芸術」だ。カナダのノースウェスト準州に住むイヌイットの人々の作品を中心にアラスカ、シベリア、グリーンランドからの彫刻や織物、仮面、版画などを一堂に集めた意欲的な企画である。自然と一体に生きるイヌイットの伝統的な魂にふれることのできる展覧会として、アムウェイ環境財団が協賛し、国連環境計画とノースウェスト準州が後援している。

## 7月は「グレート・カナダ'91」

一連のイベントの中でハイライトになるのは、「グレート・カナダ'91」。カナダ大使館と「グレート・カナダ'91」実行委員会の岡田晃プロデューサーらが中心になって企画したユニークで野心的な一連の文化イベントである。カナダの建国記念日である7月1日から2週間、東京・渋谷のBunkamuraと青山通りのカナダ大使館新庁舎を中心に、開催される。バレエ、音楽、映画、美術など、カナダ第一級の芸術が公演または展示されることになっている。

「グレート・カナダ'91」の最大の目玉は、7月5日から10日まで、Bunkamuraのオーチャードホールで行なわれる「レ・グラン・バレエ・カナディアン」。カナダの3大バレエ団のひとつである同バレエ団は、ケベック州やカナ

ダにおけるダンスの発展に大きな役割を果たしてきた伝統をもっている。今回の演目は、ストラビンスキーの「ペトルーシユカ」、チャイコフスキーの「セレナード」や「パ・ド・ドゥー」といった、ロシア・バレエの中で最も有名な作品など



オーフォード弦楽四重奏団。

が予定されている。

7月1日と2日、オーチャードホールでの幕開きは、ピアニストのルイ・ローティとチェロのオーフラ・ハーノイを迎えて、鬼才セルジュ・コミッシューナが指揮するバンクーバー交響楽団だ。80年を超える歴史をもつ同交響楽団は、クラシックからポップスまで幅広い作品をレパートリーに国際的に活躍している。

7月1～7日、Bunkamuraのシアタークーンで上演されるのは、ご存じ「赤毛のアン」のミュージカル。1965年に初めてこのミュージカルがシャーロットタウン・フェスティバルで公演されて以来、カナダ全国から、また世界各地から合計100万人を超える人々が、プリンス・

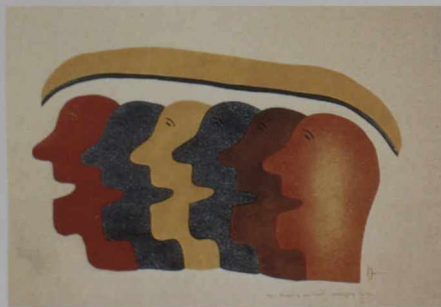




カナダ大使館で見られるイヌイットの彫刻。  
アムウェイ環境財団の後援の展覧会。

エドワード島を訪れ、このミュージカルを楽しんだ。日本からも、1989年だけで1万人のファンがフェスティバルを訪れている。毎年、本場シャーロットタウン・フェスティバルで上演されるミュージカル「赤毛のアン」が、今年はオリジナル・キャストもそっくりそのまま、日本へやってくるわけだ。

7月1日から7日まで連続7日間、カナダを代表するオーフォード弦楽四重奏団が、カナダ大使館のシアターで室内楽を演奏する。ピア



Bunkamuraで展示されるイヌイットの版画。

ノ＝ジュン・クープ、チェロ＝ショーナ・ロールストン、クラリネット＝ジェームズ・キャンベルが客演するのも、楽しみだ。

「グレート・カナダ'91」実行委員会とアスカ・フィルム・インターナショナルが共同で実施するのは、6月29日～7月7日のカナディアン・シネマ・ウィーク。カナダ映画は、日本ではアメリカ映画やフランス映画ほど知られていないが、歴史が若いだけに意欲的な作品が次々と生み出され、その質の高さ、普遍性、思想性で世界の映画評論家たちから注目されている。

上映館は、Bunkamuraのル・シネマ2、東京・青山の草月ホール、東京・吉祥寺の



ミュージカル「赤毛のアン」。

バウスシアターの3館。ラインナップは、「カナディアン・ウィメンズ・シネマ」として、ジャズ・ピアニストの一生を描いたフランシス・マッケンヴェイツ「回転扉」、ミシェル・ブロール監督「A Paper Wedding」、パトリシア・グルーベン監督「Deep Sleep」ほか、「カナディアン・ニュー・シネマ」として、エジプトで発見された白黒映画を復元したオリバー・アセリン監督「The Statue」、自分の家を建てるために、働くだけの平凡な男が迎える人生の転変を描いたイヴ・シモノー監督「Perfectly Normal」、国立映画制作庁アニメ・スペシャルとしてノーマン・マクラレンを追悼したカナダ・アニメ名作集などが予定されている。

Bunkamura ギャラリーで7月1～14日まで開催される「コンテンポラリー・イヌイット・アート展」は、ブリティッシュ・コロンビア大学民族博物館のコレクションから現代イヌイット作品を約40点選んで展示する。カナダ大使館で行なわれるイヌイット展と合わせてご覧いただきたい。

6月27～7月14日、東京・青山のスパイラルホールで立体アーティスト、アラン・ベルヒャーが連作「コンドー」を展示、6月24日～7月27日まで東京・ベイエリアの佐賀町エキジビット・スペースでジュヌビエーブ・カデュエの写真展も開催される。

カナダのレコード大賞であるジュノー賞を幾度も受賞したことのあるピアニスト、アンドレ・ギヤニオンも、カナダ大使館の新しい劇場で7月12～14日、コンサートを行なう。ギヤニオンは、クラシックの知性をもったロマンチズム溢れるスタイルと解釈で有名なピアニストである。

7月10日、上野の東京文化会館小ホール

で公演するアンジェラ・ヒューイットは、欧米で定期的に公演しているカナダ人ピアニストで、来日公演は今回が2度目、日本のファンも多い。

カルガリー少年合唱団は6月30日、渋谷のBunkamuraに登場する。

### イヤー・オブ・カナダは 年間を通じて多彩な行事

カナダ建国を記念する7月に実行委員会が集中企画した「グレート・カナダ'91」のほかに、今年は12月まで年間を通じて、音楽、絵画からビデオ展など、カナダのさまざまなイベントが楽しめる。

東京・渋谷のBunkamuraで幕を開けるミュージカル「赤毛のアン」は、名古屋、京都、大阪、広島、福岡、近江八幡、横浜と日本の西半分を巡回公演したあと（後出の日程表を参照）、再び東京に戻り、厚生年金会館で8月13～20日までサヨナラ公演を行なう。

カナダ大使館新庁舎のギャラリーでトップを切って公開されるのは、新庁舎の設計構想を担当した建築家レイモンド・モリヤマ氏のデッサンや模型を披露する展覧会。期間は、4月15日から約1か月。

カナダ大使館ギャラリーでは、9月1日から30日まで、フレッド・トンプソン建築展も予定されている。

大使館ギャラリーで見られるのはそのほか、環境保護に深い共感を抱いて自然を描く世界的な画家ロバート・ベートマンの個展（8月21日～9月20日）、ライブコンサートを拒否しレコードでだけ演奏を発表した伝説的ピアニスト、グレン・グールドに関する資料を集めた展示（9月24日～11月9日）などが予定されている。

「イヤー・オブ・カナダ」の最後を飾るカナダ・ビデオ・アート展「ノーザン・ライツ」は、11月1日から12月15日まで新庁舎4階のエキジビジョン・スペースで。カナダ人ビデオ・アーティストのペギー・ゲイルが企画した、ユニーク

な構成とインスタレーションで見せる現代カナダ・ビデオアート展だ。

芸術作品は、どんなジャンルのものであれ、カナダの地理や気候、多民族性を反映しており、カナダ社会の大切な要素である。「グレー

ト・カナダ'91」および「イヤー・オブ・カナダ・イン・ジャパン」のさまざまなイベントを通じて、日本でカナダに対する関心と理解が大きく高まるものと期待されている。



グラン・バレエ・カナディアン

## ■ 日 程 表 ■

プログラム名	日 程	場 所	お問い合わせ先
<b>グレート・カナダ '91のプログラム</b>			
レ・グラン・バレエ・カナディアン	7月5日～7日、9日～10日	Bunkamura オーチャードホール	グレート・カナダ'91実行委員会 03-3791-8211 チケット予約は コンサートエージェンシー ジカ 03-3780-5400 チケットピア 03-5237-9990 チケットセゾン 03-5990-9990 CN プレイガイド 03-3257-9999 Bunkamura チケットセンター 03-3477-9999 (バレエ、オーケストラのみ)
バンクーバー交響楽団	7月1日、2日	Bunkamura オーチャードホール	
カナダ演奏家室内楽公演	7月1日～7日	カナダ大使館内シアター	
ミュージカル「赤毛のアン」	7月1日～7日	Bunkamura シアターコクーン	ジェントル・アーツ 03-3477-7625
	7月9日～13日	昭和女子大学人見記念講堂	
	8月13日～20日	東京厚生年金会館	
コンテンポラリー・イマイツ・アート展(入場無料)	7月1日～14日	Bunkamura ギャラリー	アルファ・ネットワークス 03-3791-8211
カナディアン・シネマ・ウィーク	6月29日～7月7日	ル・シネマ2、草月ホール、バウスシアター	びあ文化事業部 03-3237-9704
ミュータノベ展「カナダ・ジュテム/アイラブユー」	7月1日～31日	カナダ大使館4階	カナダ大使館広報・文化部 03-3408-2101
アラン・ベルヒャー展	6月27～7月14日	スパイラルホール	ワコールアートセンター 03-3498-1171
ジュヌビエーブ・カデュー展	6月24日～7月27日	佐賀町エキジビット・スペース	佐賀町エキジビットスペース 03-3630-3243
アンドレ・ギャニオン・ピアノコンサート	7月12日～14日	カナダ大使館シアター	Bus 03-3444-9831
アンジェラ・ヒューイット・ピアノリサイタル	7月10日	上野・東京文化会館小ホール	ソティエ音楽工房 03-3470-2727
カルガリー少年合唱団公演	6月30日	Bunkamura 1F	アルバータ州政府東京事務所 03-3475-1171
ロゼリン・デリール展	7月3日～20日	Gallery KOYANAGI	Gallery KOYANAGI 03-3561-1896
<b>イヤー・オブ・カナダの主なプログラム</b>			
レイモンド・モリヤマ建築デッサン展	4月16日～5月15日	カナダ大使館ギャラリー	カナダ大使館広報・文化部 03-3408-2101
「マスタース・オブ・ジ・アークティック」展	5月28日～8月16日		
ロバート・ベートマン個展	8月21日～9月20日		
グレン・グールド展	9月24日～11月9日		
フレッド・トンプソン建築展	9月1日～30日		
ミュージカル「赤毛のアン」	7月17～19日 7月21～22日 7月24～28日 7月30～31日 8月2～3日 8月6～7日 8月10～11日	愛知厚生年金会館 京都会館第2ホール 大阪フェスティバルホール 広島厚生年金会館 福岡サンパレスホール 近江八幡文化会館 神奈川県民ホール	ジェントル・アーツ 03-3477-7625
カナダ・ビデオ・アート展「ノーザン・ライツ」	11月1日～12月15日	カナダ大使館4Fエキジビジョン・スペース	カナダ大使館広報・文化部 03-3408-2101
ブルース・コバーン・ポップス・コンサート	9月6日～7日	横浜アリーナ	
ブライアン・アダムス・ロックコンサート	9月予定		
沢田美保展	9月下旬～10月初旬	山梨県立美術館	